

第3回フォーラムバイオシミラー 開催報告

2017年5月16日、大手町 KDDI ホールにて「第3回バイオシミラーフォーラム」を開催いたしました。会員・一般参加者を合わせて157名のご参加を頂きました。有難うございました。

国立医薬品食品衛生研究所 所長 川西 徹先生から「バイオ医薬品とバイオシミラー（BS）のレギュトリーサイエンスを考える –バイオ医薬品開発の視点から–」と題し、バイオ医薬品とBSの状況、BSの普及に向けたレギュトリーサイエンスの課題についてご講演頂きました。

武蔵野大学 薬学部 客員教授 豊島 聡先生から「厚生労働省班研究の成果と今後」と題し、製薬メーカー、医師、薬剤師、一般人（健康人、患者）を対象に、BSの認知度と使用に対する考え、懸念事項に対するアンケート形式での調査の結果、及びBS普及のための各国の取り組みについてご報告頂き、日本でBSの普及率を向上するための課題についてご講演頂きました。

続いて座長、北海道大学病院 臨床研究開発センター 教授 荒戸 照世先生のもと、①東京医科歯科大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤部長 高橋 弘充先生、②信州大学医学部附属病院 薬剤部 教授・薬剤部長 大森 栄先生、③千葉大学医学部附属病院 薬剤部 教授・薬剤部長 石井 伊都子先生の3名にシンポジストをお願いして「BSをめぐる、病院（薬剤部）における現状と課題」と題したシンポジウムを開催致しました。

①高橋先生からは、「BSが医療現場において使用されるためのポイント（インセンティブの必要性等についての訴求）」、②大森先生からは、「医療機関においてBS採用及び処方に至るまでのトピックス（病院がBS採用をご検討された際の経験からの現状）」、③石井先生からは、「医療現場においてBSの理解を促進するために病院薬剤師が果たす役割（患者及び医師のBSに対する理解を深めるために病院薬剤師に求められること）」についてご発表頂き、BSをより使いやすくするための課題やその対策、医療関係者を通じた一般人（健康人、患者）に対するBSの理解促進の意義等についてご討議頂きました。



今回は、協議会が発足して初めてのフォーラムであり、至らない点多々あったことと存じますが、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

講演内容の詳細は「臨床医薬 8月号」に掲載予定です。